

# さらなる消防広域化を目指して

静岡県 下田消防本部

## 1 下田地区消防組合の概要

下田地区消防組合は、静岡県東部の伊豆半島南部に位置し、下田市、河津町、南伊豆町、西伊豆町及び松崎町の1市4町により一部事務組合を組織し、消防事務の共同処理を行っています。

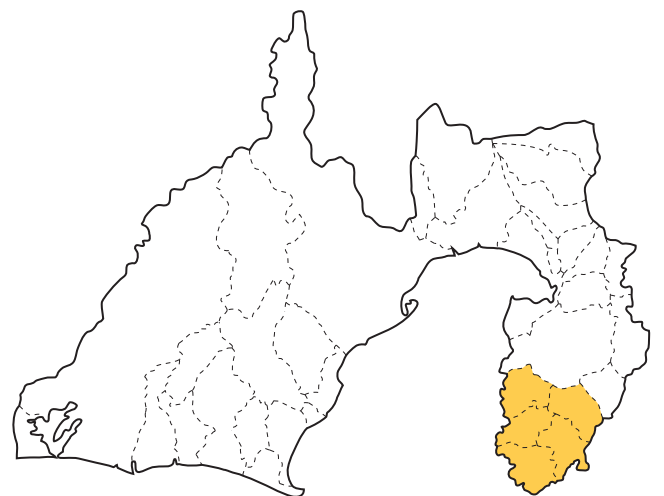
管轄区域は、全域が富士箱根伊豆国立公園に属し、文豪川端康成の代表作「伊豆の踊子」の舞台となった天城山系を背にして駿河湾、相模湾に面する風光明媚な海岸線を臨み、海山の豊かな自然と良質な温泉に恵まれた有数の観光地として、四季を通して多くの観光客が訪れています。

消防本部を置く下田市は、黒船来航とアメリカ総領事館が置かれた開国の地として歴史に刻まれ、毎年5月に開催する「黒船祭」は、国内外から多くの人々が訪れ、国際色豊かな催しとなっています。

交通網は、鉄道が伊豆急下田駅から東海岸に沿って熱海駅で東海道本線に接続し、道路は、半島の中心を南北に縦断する国道414号線と、東西の海岸線を走る国道135号線及び136号線が主要なルートとなっています。

平成25年4月1日の広域化により、管内人口は約6万人、管轄面積は507km<sup>2</sup>で半島の約2分の1を占める広さとなりました。消防体制は、広域化前の消防力を引き継ぎ、1本部2消防署2分署、職員数118人、消防車両25台を配備しております。

管内図



下田・西伊豆地区消防救急広域化記念式典(H25.4.1)

## 2 広域化に至る経緯

静岡県東部の消防広域化は、静岡県が平成20年3月に策定した「静岡県消防救急広域化推進計画」に基づき、県東部地区を一圏域として広域化の実現に向けた協議を開始しましたが、平成22年6月、対象市町による検討結果を受けた推進計画の変更を経て、平成24年3月、下田地区消防組合及び西伊豆広域消防組合の関係1市4町は、沼津市を中心とする5市7町の枠組みの中で「駿東伊豆地区消防救急広域化協議会」へ参画することに決定しました。

その後協議を重ねた結果、市町の規模や財政力の格差等の諸課題の多くが平成28年4月1日を期限とする消防広域化までに調整することは困難とする判断で一致し、同協議会の枠組みを崩すことなく関係1市4町が先行して広域化を図り、組織の体制を整備した上で改めて駿東伊豆地区の枠組みに参画することが最善とする結論に達し、同協議会の了承を得て、平成24年6月「下田・西伊豆地区消防救急広域化協議会」を設立し、翌年4月1日の運用開始を目的に建設的に協議を進め、西伊豆広域消防組合を構成していた西伊豆町及び松崎町が下田地区消防組合に加わるかたちで広域化の実現に至りました。

## 3 広域化の効果

広域化の効果としては、まず人事ローテーションが活性化され、さらに職員のモチベーションが上がることで相乗的に組織全体の活性化が図れました。



下田・西伊豆地区消防救急広域化記念式典(H25.4.1)



隣接消防本部との合同水難訓練(H26.7)

また、部隊数の増加により初動体制が強化され、広域化直後の昨年7月に管内で発生した豪雨災害では、一本化した指揮体制の下、署間の効率的な部隊運用により迅速な災害対応を行ったことは、広域化の効果を十分に実感できるものでした。

財政面の効果としては、その基盤が強化されたことにより車両の更新等事業計画の遂行がより円滑になったことに加え、平成26年度中に整備するデジタル無線施設等についても効率的な基地局の配置が可能となり、大幅な経費の節減を図ることができました。

## 4 課題と今後の取組み

伊豆半島南部は、急速に進む過疎高齢化から、将来の消防需要を見据えた適正な消防力の配備が求められる一方で、大規模地震の震源域に直面し、より広域的かつ実効的な災害対策が喫緊の課題であり、今後、さらなる広域化に向けて駿東伊豆地区の消防広域化の動向を注視し、組織の体制整備を図っていきます。

## 5 おわりに

相互が小規模な消防本部の広域化ですが、1年が経過し、その効果は住民の皆様からも一定の評価をいただいています。今後も、職員一丸となって質の高い消防行政を目指してまいります。